

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	「春の歌ども」：短歌
Author(s)	上野, 裕久
Citation	龍南, 244: 38-39
Issue date	1939-06-27
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7543
Right	

— 短 歌 —

「春の歌ども」

上 野 裕 久

雰圍氣を憧れきたる喫茶店エジプト情調の壁飾かな

たちこめし煙草のけむにレコードのワルツはかるくとけこみて消ゆ

病狀に悪化を來たし臥せる身に下宿はさびし母と呼びみぬ

長髪よさらばと鏡見つめるぬ床屋の缺さえてなる時

何故にかくも淋しきなにゆゑにかくは慕はし弱しと思へど

君よ泣けこころゆくまで哭なき給へ悲嘆の底たに起つ日を待たむ

寝ころべば春の陽ぬくしニユースよむ沈丁華の香ただよへる縁

賣物の札はさびしも思ひ出の療養院は廢墟のごとし

埋立のモーターひびき工事中いかめしく制札は海軍としるす

療友ともはなほ癒えぬ病の床に臥すひととせ経ちて春は來れど（療友を見舞ひて、三首）

よくもこそ訪ひしと思ふ不幸なる病人やみびとたちの喜び見れば

待伏せるさだめ如何にと眼はくもる病み臥す父のそばのみどり見

海風に散るやちらちら満開の櫻並木をわが自動車くるまゆく

波の音ききつつ寝いねぬ湯浴みせるかろき疲れに月影あはし（海湯温泉にて）

朽ちはてし蘇鐵すおに生ひて哀れなりわらび二本かぜに春風やはらかに

今宵ほど親なせけの情愛なさけに泣きしなし老軀をさげて大陸にゆく

はかられぬ人の運命さだめよこれが遂に別れかもしれず父の顔見る

麥あをし噴煙も壯に阿蘇の山汝が麓こそわが祖おやの地ぞ

眼前に迫り來れり熔岩のものすごきかなどこまで續く（櫻島にて）